



Press Release

2016年1月21日

Running for those who can't - 世界と一緒に走ろう！ Wings For Life World Run アンバサダーのご紹介

5月8日（日）20時（協定世界時午前11時）より、世界33か国34ヶ所以上の会場にて同時にスタートするランニング・イベント Wings for Life World Run（ウィングス・フォー・ライフ・ワールドラン）を開催します。日本でも滋賀県高島市での開催を予定しており、イベントのアンバサダーとして、レーシング・ドライバーの小林可夢偉選手、100km マラソン世界記録保持者の砂田貴裕氏、日本せきずい基金理事長の大濱眞氏、そしてアーティストのTAKA（松嶺貴幸）氏が就任し、1月20日（水）に都内で記者発表会を行いました。またプロサッカークラブ「セレッソ大阪」もオフィシャル・サポーターとしての賛同が決まりました。

Wings for Life World Run は脊髄損傷治療法の発見に取り組む研究に対して資金援助を行う非営利団体 Wings for Life 財団をサポートするために行うイベントで、参加費の全額と同額を Wings for Life 財団に研究助成費として寄付します。

今回アンバサダーに就任した大濱氏は「Wings For Life World Run については以前から知っていましたが、昨年日本開催の知らせを聞いた時は驚きました。脊髄損傷の治療方法の確立は現実的になりつつあります。特に怪我から時間が経っていない急性期での治療は着実に進歩しています。私や TAKA さんの様に脊髄損傷から時間が経った状態を慢性期と呼び、治療が難しいのが現状ですが、慶應義塾大学の岡野教授を中心としたチームが慢性期の治療・研究も始めますということで、慢性期もおそらく 2019 年か 2020 年頃に治療が始まるだろうとのこと。しかしながら臨床とか研究にはかなりお金がかかります。脊髄損傷の仲間が、最終的に研究に資金が提供される Wings for Life World Run にかける期待は非常に強いです。私はラグビーで怪我して車いす生活ですが、柔道で怪我した仲間は人口呼吸器をつけて暮らしています。『自分で呼吸できれば全然生活変わるのに』という夢を実現させるためには、このイベントを通して、是非多くの方に応援していただきたいと思っております」とコメントしています。

Wings for Life World Run に関する詳細は www.wingsforlifeworldrun.com をご覧下さい

<問い合わせ先>

■メディアご担当者専用	WFL-WR@fullhouse.jp	Tel:03-5413-0384(フルハウス 近藤)
■イベントに関して	WFL-WR@r-wellness.com (Wings for Life World Run 大会事務局)	
レッドブル・ジャパン(株)	担当/松岡	TEL: 03-6419-0270





アンバサダーに就任した4名、左より大濱氏、小林選手、砂田氏、TAKA



オフィシャル・サポーターとして賛同するセレッソ大阪の選手たち
左より茂庭照幸選手、玉田圭司選手、柿谷曜一朗選手





昨年に続いて今年もアンバサダーとしてイベントに賛同する小林選手は「アスリートとして脊髄損傷はすごく身近にあります。実際、僕の先輩ドライバーも車のレース事故で脊髄損傷になって、車椅子生活をしている人がいます。スポーツ選手でなくても、本当にいつ起こるかわからないという意識を持って、僕たちは生活しないといけません。僕たちは生活しないといけません。」

何か力になれる事がないか、脊髄損傷を解決できる方法が1日でも早く見つければいいという思いでいっぱいです」とコメントしています。



今回アンバサダーに就任した TAKA は「13年前にフリースタイルスキーの練習中に怪我をして首の骨を折り、肩から下の運動機能を失いました。本当に一瞬でした、その一瞬で人生が変わりました。アスリートだった人間が、これからどういう事でエネルギーを発散していくか、今でもそうですが、毎日考えました。そこで怪我後にアメリカに留学しました。そしてアートに出会

い、今はアーティストとして活動し、体を動かすのとは別の方法でエネルギーを発散しています。Wings for Life World Run はこれがマラソンでできる、しかも脊髄損傷治療に貢献できるという点で画期的なイベントだと感じます」とコメントし、会見後に駒澤運動公園で行われた体験イベントにも参加しました。

第1回目の2014年大会から参加している砂田氏は「この大会は世界で最後に捕まった人が世界チャンピオンになるのですが、本当のゴールは脊髄損傷の治療が確立され、車椅子の人が自分の足で歩けるようになる時かなとアンバサダーの皆様のお話を聞きながら思いました。単に順位を競うだけではなく、この活動を全世界に知ってもらい、そして参加してもらったうえで参加費が治療研究費に当てられることで、近い将来みんなが笑顔でなることが本当の意味でのゴールだと思います」とコメントしました。





会見の後には駒沢オリンピック公園陸上競技場に移動して、Wings for Life World Run の体験会を行いました。ゴールが追いかけてくるキャッチャーカー役として砂田氏が参加し、イベント参加者は彼から追いかけられつつ、ランニングを楽しみました。

体験会にはレッドブル・アスリートの新井洋人（サーフィン）、内野洋平（BMX フラットランド）、手塚翔太（ウェイクボード）、徳田耕太郎（フリースタイル・フットボール）、畠山紗英（BMX レース）ボンちゃん（高橋正人 e-Sports:ウルトラストリートファイターIV）が参加してイベントを盛り上げました。



■映像、写真素材について

素材は <http://www.wingsforlifeworldrunnewsroom.com/> で入手可能です。

素材は報道、記事掲載に限り、無償でご利用頂けます。ご利用の際は登録が必要です。

登録方法とクレジット、ダウンロード方法は <http://j.mp/wflwrpc> をご覧下さい。

※上記に無い写真はフルハウス WFL-WR@fullhouse.jp、Tel:03-5413-0384 まで





■Wings for Life (ウィングス・フォー・ライフ財団) について

世界の脊髄損傷患者は 300 万人と推定され、毎年 13 万人が脊髄を損傷し、まひ状態となっています。その主な原因は交通事故で、この治療のための研究は民間に負うところが多いのが現状です。非営利団体の Wings for Life は脊髄損傷治療法の発見に取り組む研究に対して資金援助を行っています。資金は寄付に頼っており、全額を研究助成に用いています。

<http://www.wingsforlife.com>

■Wings for Life World Run とは

Wings for Life 財団をサポートするために行うランニング・イベントで、イベント参加費の全額と同額を財団に研究助成費として寄付します。世界 6 大陸 30 ヶ所以上の会場にて同時にスタートするだけでなく、後から走り出すキャッチャーカーに追い越された時点でレースが終了する（ゴールが後ろから追いかけてくる）というユニークなイベントです。

2014 年に初開催、日本では 2015 年 5 月 3 日（日）に滋賀県高島市で初開催しました。

2015 年は世界 6 大陸 33 か国 35 ヶ所の会場で男女 73,360 人（日本では 2,024 人）が参加し、参加費は約 5 億 6 千 5 百万円にもなり、Wings for Life 財団の支援に使われています。

<大会要項>

- 大会名称： Wings for Life World Run (ウィングス・フォー・ライフ・ワールドラン)
日時： 2016 年 5 月 8 日（日） 20:00 スタート (UTC 協定世界時午前 11 時)
開催場所： 滋賀県高島市
表彰： 日本チャンピオン男女 1 位、ワールドチャンピオン男女 1 位
優勝賞品： 世界レベルのコーチによるトレーニングキャンプにご招待 (1 ヶ月)
日本チャンピオンは翌年の希望開催地にご招待
募集人数： 先着順 3,500 人 (一般+車いす)
参加資格： 大会当日満 18 歳以上 (高校生不可)。ハンドバイク不可・生活用車いす可
参加料： 6,500 円+消費税 (7,020 円税込)
※参加費の全額と同額を Wings for Life 財団に寄付
申込先： 公式サイト(www.wingsforlifeworldrun.com)
主催： レッドブル・ジャパン株式会社
グローバルパートナー： PUMA、GARMIN
ローカルパートナー： LED LENSER
後援： 高島市、滋賀県
運営協力： 株式会社ランナーズ・ウェルネス





■アンバサダー・プロフィール

氏名 小林可夢偉 (こばやし かむい)

レーシング・ドライバー

誕生日 1986年9月13日

出身 兵庫県尼崎市



9歳でカートを始める。

2000年全日本ジュニアカート選手権シリーズチャンピオン。

2005年フォーミュラ・ルノーのユーロ、イタリア両シリーズチャンピオン。

2008年よりトヨタF1のサードドライバーを務めるとともにGP2に参戦しアジアシリーズのチャンピオンに輝く。2009年F1ブラジルGPでトヨタからF1デビューし、同年のアブダビGPで初入賞。2010年よりザウバーF1からフル参戦。2012年の日本GPで3位表彰台を獲得。2013年はアジア人初のフェラーリワークスドライバーとしてWECに参戦。2014年ケーターハムよりF1に参戦。2015年チームルマンよりスーパーフォーミュラに参戦。

氏名 砂田貴裕 (すなだ たかひろ)

誕生日 1973年1月19日

出身 大阪府出身

元マラソン・長距離走選手

ウルトラマラソン (100km)

世界記録保持者

※1998年6月から現在まで



太成高等学校卒業後、大阪ガスに入社。

1992年防府読売マラソンで2時間15分30秒(ジュニア日本記録)を記録。姫路市陸協(シーエス建設)に移籍後の1995年1月、東京シティハーフマラソンで1時間1分23秒(現在は非公認コースの参考記録)を記録した。1995年積水化学工業に移籍。アテネで行われたワールドカップマラソンに出場し、2時間13分16秒で2位に入る。同年、福岡国際マラソンで2時間12分01秒を記録し10位。翌年の福岡では2時間13分01秒で9位だった。1998年6月、サロマ湖100キロウルトラマラソンにおいて、6時間13分33秒の世界最高記録で優勝。1999年5月にフランスで行われた100kmの大会(IAU世界大会)では6時間26分06秒で3位だった。12月の福岡で2時間11分03秒を記録し8位に入った。2000年4月にもフランスの100kmの大会(IAUヨーロッパ大会)に出場し、6時間17分17秒で優勝。9月のベルリンマラソンで自己ベストの2時間10分08秒で4位に入った。





名前 大濱眞 (おおはま まこと)
日本せきずい基金 (JSCF) 理事長

脊髄障害の当事者が最善の医療情報入手し
夢と希望を持って生きられるようにと、
日本せきずい基金を立ち上げる。
以後、他の患者当事者団体とも協力しあい研究者、
当事者や関係者と連携し精力的に活動中。



<日本せきずい基金 (JSCF : Japan Spinal Cord Foundation) とは>

日本せきずい基金は、せきずい損傷者が「誇りと責任を持って自立する社会」の実現を目指して、生活・医療環境への支援活動を推進します。国内外の研究者・医療従事者や患者団体との連携を強化し、研究・治療情報やヘルスケア・リハビリ情報などの最新・正確・具体的な医療情報を発信し、損傷者の自立に向けた QOL (Quality of Life) 向上を促進します。さらに、救急措置・早期リハビリなどの医療環境強化と、再生医療の基礎・臨床研究環境の強化のために、他疾病患者団体と連携し行政・マスコミへの働きかけを行うとともに、再生医療の研究者を直接支援していきます。

日本せきずい基金ホームページ: <http://www.jscf.org/index.html>

氏名 TAKA (本名: 松嶺貴幸)

1985年岩手県雫石町に生まれる。16歳までフリースタイルスキーを志す。転倒事故により頸椎を骨折、脊髄を損傷し四肢麻痺(両手両足が動かない)となる。2010年、アメリカ合衆国カリフォルニア州ロサンゼルスに渡り、サンタモニカカレッジで1年間学ぶ。アメリカ留学当時、オフスクールで出会ったジョニー・エレクソン・タダに影響を受け、アート&デザインの世界に飛び込む。現在は EXTREME PAINTER - エクストリーム・ペインターとして、コンセプトアートやミュージシャン、スポーツ選手などのポートレートアート(肖像アート)を手がける。またクールバリアフリープロジェクト「一般社団法人ランプアップいわて」の代表としても活動している。



TAKA オフィシャル WEB サイト <http://takayuki-m.com/>

